

2013年9月: JaCVAM活動マンスリーレポート

NO.	項 目	記 載 内 容
論文		
1	著者名	Hiroyuki Yamaguchi ^{*1, 2} , Hajime Kojima, Toshiaki Takezawa ^{*1}
	著者が他機関所属の場合には所属機関名を記載する	*1農業生物資源研究所, *2関東化学株式会社
	論文題名 (和訳を括弧書きで記載)	Vitrigel-Eye Irritation Test Method using HCE-T cells (ヒト角膜上皮細胞を用いるビトリゲル眼刺激性試験法)
	雑誌名、巻(号)、ページ、年	Toxicological Sciences, 7月20日(オンライン)(2013)
2	著者名	小島 肇夫
	題名	技術講座 安全性評価試験(23) 実験動物を用いる皮膚刺激性試験
	雑誌名、巻(号)、ページ、年	COSME TECH JAPAN, 3(9)81-84(2013)
単行本		
1	著者名	小島 肇
	書名	<i>In vitro</i> 毒性・動態評価の最前線: 第1章・動物実験代替法から <i>in vitro</i> 毒性試験へ
	出版社名、発行地、年号、ページ	シーエムシー出版, 東京, 2013, 1-7
	掲載内容(150字以内)	動物実験の置換えに拘らず, 作用機構に基づいた <i>in vitro</i> 試験法開発の必要性を唱えた.

国内学会		
1	発表者名	小島肇夫
	演題名	代替法の最新情報
	学会名, 発表年月及び場所	動物実験についての知識を高めるための教育訓練 2013年9月11日, 農研機構 中央農業総合研究センター
国際学会		
1	発表者名	H. Kojima, M. Oshimura ^{*1} , K. Saito ^{*2} , F. Saito ^{*3} and N. Imatanaka ^{*3}
	他機関所属の著者がいる場合には所属機関名を記載する	^{*1} 鳥取大学, ^{*2} 住友化学株式会社, ^{*3} 一般財団法人・化学物質評価研究機構
	演題名 (和訳を括弧書きで記載)	Japanese Project “ARCH-Tox” for the Future Chemicals Management Policy: Research and Development of in vitro and in vivo Assays for Internationally Leading Hazard Assessment and Test Methods (将来の化学物質管理政策のための日本プロジェクト, ARCH-Tox: 有害性評価の国際表示のためのin vitroおよびin vivo試験の研究および開発)
	学会名, 発表年月及び場所	15th Annual Congress of European Society for Alternative to Animal Testing, 2013年9月17日, リンツ (オーストリア)
2	発表者名	H.Kojima, W. Stokes ^{*1} , I. Horii ^{*2} , K.B. Hwan ^{*3} and H. Spielmann ^{*4}
	他機関所属の著者がいる場合には所属機関名を記載する	^{*1} National Institute of Environmental and Health Sciences, ^{*2} Pfizer, ^{*3} Keimyung University, ^{*4} Free University Berlin
	演題名 (和訳を括弧書きで記載)	Peer Review Panel Evaluation of the ROS Photosafety Assay (ROS光安全性試験の第三者評価)
	学会名, 発表年月及び場所	15th Annual Congress of European Society for Alternative to Animal Testing, 2013年9月15日, リンツ (オーストリア)